

分科会での議論整理表（環境・都市機能分科会）

重点戦略課題	現状・課題	重点的な取組みなど	具体的な委員意見
水とみどりの おいと安らぎ のある街の実現	駅前通地下歩行空間整備において現況の緑を減らした場合、駅前通は看板の山でしかない。どのように緑を再生させ、保全していくかが重要 特に都心部の緑は、量だけではなく質や効果的な配置についても検討することが必要 都市の自然としては、水辺と緑と動植物に身近に触れられることが大事 小学校や地域などで、自然との接し方、自然の発見の仕方を学ぶ機会を設けることが必要	都心に豊かな緑や水辺を再生・育成する取組みを進める 美しく風格ある都市景観のまちづくりを具体的に進めるためのビジョンと景観ガイドラインを作成	公共施設の壁面緑化（ツタが覆うようにする）（大坂委員） 札幌の魅力的な街並景観を形成するためには、街路樹や植樹樹の緑の量や質、効果的配置などの検討とともに、街路空間の看板・広告類の取り扱い、建物ファサードのあり方など総合的な景観ガイドラインが必要（中井副会長） 創成川アンダーパス事業において、地上部分のみどりを 30%増やし、水辺に生物が戻ってくるようにする。川沿いを市民が自然と親しみながら散策できるように整備し、車をできるだけ少なくする（中島委員）
		市民が身近な地域の自然や生態系に親しみ・学ぶ機会の充実と保全活動の支援	大通公園のみどり 30%増の重点地区、シンボルにし、市民の記念植樹コーナーをつくる(1丁分をあてる)。小学校跡地利用の校庭も、記念植樹コーナーとする（中島委員） 大通公園の多面的活用に関する規制緩和をする（大坂委員・中島委員） 環境首都コンテストに参加する（大坂委員） みどりを楽しめる散策路・自転車道の整備（大坂委員） 市民・企業・NPOの植樹活動の状況把握（大坂委員） 自然に関して NPO が行う情報収集・調査研究の支援や、市民が自然環境に親しむ際のマナーを学ぶ機会や学習の充実が必要（中井副会長）
地球環境問題への 対応と循環型 社会の構築	CO2 排出の割合が高い民生部門について、市民がどうすれば削減できるか考えることが必要 家庭で、コジェネレーションシステムや融雪槽・融雪機が無計画に普及することは、地球温暖化を考えると問題 市民も企業も一体感を持ってごみ問題を進めるべき。啓発事業やイベントを個々に行うだけでなく、それらを合わせて取り組むなど仕掛けが必要	エネルギーの有効利用や TDM(交通需要マネジメント) などによる CO2 の排出削減	持続可能なコンパクトシティへ転換していくうえで、除雪に要するエネルギーを削減したり、CO2 排出を削減することを推進すべき（太田委員） 排ガス対策を考慮したコジェネレーションシステムの導入を推進（大坂委員・太田委員） さわやかノーカーデーを増やす（大坂委員）
		ごみの発生抑制、リサイクル促進などによる廃棄物の削減	市が主催するイベントにおける使い捨て食器の使用禁止（大坂委員） YOSAKOI ソーラン祭りや雪まつりのような大規模イベントにおいて、(A SEED JAPAN が実施しているような)ごみゼロナビゲーション活動を推進し、分別の啓発を行う（大坂委員） 効果的なゴミ分別啓発活動「ワケル君」キャンペーンの実施（大坂委員） 街路樹の枯葉やプラスチック系ごみを燃やしエネルギーを回収することを考えるべき（太田委員） 現行のゴミ分別の徹底を図るとともに、有料化も議論する（中島委員）
ゆたかな冬の暮 らしの実現	冬期間の歩行者環境や除雪については市民要望が高い 冬は夏と同じような水準は維持できない。生活環境を守るために、市民や行政は協力し合いながら、何をしなければならぬか改めて確認することが重要 「冬」や「雪」だけではなく、1 年を通じて快適で楽しめる北の暮らしが、文化として定着するような視点が必要 日本の政策、経済システム、生活の基準など、今まで全て東京を中心に組み立てられてきた。北の視点から暮らしや文化を考えることも大事 過去に「北方圏」の取組みが定着しなかった理由を検討しておくことが大事	環境に配慮した、パートナーシップによる雪対策の推進	積雪歩道の安全な歩行対策（太田委員） 除雪に要するエネルギーを削減する（太田委員） 除雪をしなくてもよい建物（地下空間、スカイウェイ、雁木やカバード化された歩行者道路など）のあり方の再検討（中井副会長） 除雪のための、駐車違反の徹底化のため、警察と具体的な計画を策定する（中島委員） 「雪対策基本計画」を市民と共有の行動規範にする（小林会長）
		多雪寒冷の気候風土と歴史・文化を踏まえた北の生活文化を、まもり・創り・育てるまちづくり【視点】	(以下 2 項目中井副会長) 北方型のまちづくり (雪や寒さに強い都市環境づくり・冬期間の安全で快適な歩行者空間の確保と交通機能・緑にも雪にも映える、一年を通して魅力ある都市景観の形成・北国の気候・風土に馴染むライフスタイルの育成と暮らしの文化の創出) 北国からの技術・文化の発信 (雪や寒さに親しみ、楽しみ、活用する北の生活の技術や製品の開発とデザイン文化の促進で、地域の総合的活性化を図る・省エネルギー型の都市の雪対策の研究開発・エネルギー負荷の少ない北国のライフスタイルの研究と情報発信) 雪を積極的に楽しみ、市民が参加できる象徴的なイベントを実現する 大通公園を横断する歩くスキー大会 (2007 年のノルディック大会に向けての宣伝、観光客も参加できるように) (中島委員)

「重点的な取組みなど」欄の記号については、資料「環境・都市機能分科会の議論のまとめ」との対応関係を示している
当面の重点的な取組み、実践手法・仕組みの提案、これからのまちづくりの大切な視点、取組みの方向と課題

重点戦略課題	現状・課題	重点的な取組みなど	具体的な委員意見
歩いて暮らせる ゆたかで快適な 街の創造	<p>駅前通と大通の街並景観は、貴重な札幌の観光資源である。都市観光的な面から考えることも必要</p> <p>駅前通地下歩行空間整備において現況の緑を減らした場合、駅前通は看板の山でしかない。どのように緑を再生させ、保全していくかが重要</p> <p>歩いて楽しめる魅力的な美しい都市景観の形成に関する視点が必要</p> <p>市場原理に任せていると、古いものの居場所がなくなっていく</p> <p>既存の公共的なスペースは、憩える感じではない。誰でも使えるような公共的な空間を増やすことが必要</p> <p>都心部は車が渋滞するのであまり入らないようにすべき</p> <p>自転車を勧めるならば、自転車に乗りやすい環境にすべき</p> <p>オリンピック開催前後に札幌に住みついた人たちが住むゾーンでは、社会基盤はしっかりしているが、人もコミュニティも少なくなっている。どのように再生するかが重要</p> <p>環境負荷の低減と財政の問題から、コンパクトシティを目指した取組みを推進すべき</p> <p>どのようにエネルギー循環、物質循環を含めて環境負荷が少なく、安全に生活ができ、コミュニティが形成されていくようにまちづくり直していくのかということが重要</p>	<p>駅前通の地上空間と地下歩行空間を、歩いて楽しく快適な札幌のシンボルストリートに再生美しく風格ある都市景観のまちづくりを具体的に進めるためのビジョンと景観ガイドラインを作成（再掲）</p> <p>フィルムコミッションの展開</p>	<p>札幌市の顔としての、駅前通の都心部再生をプランする。駅前通を最初のモデルケースとして、歩行者・自転車・公共交通優先の交通体系システムを導入するための議論を始めることに加え、広告、看板類の規制を含めて考える（中島委員）</p> <p>新しく建つ建物は地下空間をオープンにして地上との関係をうまくつくっていくことが大事。サンクンガーデン的なつくり方もあり得る（中井副会長）</p> <p>良好な景観形成推進のための都市景観奨励賞の実施、無電柱化の推進（大坂委員）</p> <p>古い建物・街並み・文化の保存と活用、広告・看板類の整備、まちの総合的サイン計画、魅力ある街路樹や緑の育成、建築ファサードのあり方など、都市の総合的な街並景観形成を考え、歩いて楽しい快適な街並景観を形成する（中井副会長）</p> <p>「魅力ある北国のすばらしい都市景観そのものが貴重な観光資源であり、我々の共有財産だ」という認識を、小学校ぐらいからきちんと教育してことが重要（中井副会長）</p> <p>全分野を通しFC（フィルム・コミッション）の積極的な活用（中島委員）</p> <p>まちをコンバージョンしていくには規制緩和や助成などが必要（小林会長）</p> <p>古い建物を積極的に活用するビジネスを含む利用に、補助政策をうち出す（中島委員）</p> <p>資料館の使い方に関しては、市民にオープンにする。歴史的建造物で、古い建物をどのようにこれから使っていくかという、市民参加型のモデルケースになる（中島委員）</p>
	<p>環境負荷の低減と財政の問題から、コンパクトシティを目指した取組みを推進すべき</p>	<p>都心の公共空間や公共施設に魅力あるにぎわいを創出して国際的な集客交流の場として活用</p> <p>道路や公園の多面的な活用に関する規制緩和</p> <p>TMOによる都心の公共空間の管理と活用</p>	<p>大通公園の多面的活用に関する規制緩和（大坂委員・中島委員）</p> <p>地下通路でのカフェなどの利用。その前段階として、パブリックアートなどの文化的スペースとして活用（大坂委員・中島委員）</p> <p>路上ライブ、路上大道芸等の実施への規制緩和、調整、体制づくり（大坂委員）</p> <p>札幌プロムナード（歩行者天国）の通年実施（大坂委員）</p> <p>廃校となる都心の小学校をNPOなどのまちづくり拠点のモデルに使う（中島委員）</p> <p>札幌の地下通路の管理をTMOが引き受け、屋台やワゴンが出るような場合、全部そのTMOがコントロールする（小林会長）</p>
	<p>どのようにエネルギー循環、物質循環を含めて環境負荷が少なく、安全に生活ができ、コミュニティが形成されていくようにまちづくり直していくのかということが重要</p>	<p>歩行者・自転車・公共交通を優先した快適に移動できる交通体系やシステムを構築</p> <p>エネルギーの有効利用やTDM（交通需要マネジメント）などによるCO2の排出削減（再掲）</p>	<p>歩行者・自転車・公共交通優先の交通体系システムを導入するため議論を始める。駅前通を最初のモデルケースにする（中島委員）</p> <p>公共交通推進を考える市民参加会議の設置（交通局赤字問題も含む）（中島委員）</p> <p>中心部で自家用車の乗り入れを禁止し、無料あるいは低料金の循環型バスを走らせる（太田委員）</p> <p>長期的には、LRTの導入によって歩けるまちにする（大坂委員・太田委員・中島委員）</p> <p>違法駐車防止やさわやかノーカーデーを増やす（大坂委員）</p> <p>社会実験として世界カーフリーデーへの公式参加、パークアンドライドの通勤以外の利用者拡大、レンタサイクルの実施体制の整備（大坂委員）</p> <p>自転車ロードの計画を検討（太田委員）</p> <p>まちなかの自転車利用のあり方を考える。駐輪場も含めて、住民が自転車をいかに使いこなすかというマナー教育をする。（中井副会長）</p>
	<p>持続可能なコンパクトシティを目指したまちづくり【取組みの方向】</p>	<p>都市の魅力と活力を高める高次都市機能拠点や地域の暮らしを支える広域交流拠点などの育成・整備</p>	<p>オリンピック開催前後に整備した地区についての質を上げていくために広域交流拠点、地域中心核などとリンクさせていくという戦略をとらなければならない（小林会長）</p> <p>住区整備基本計画の環状内バージョンのようなことをやる必要があるのではないかと考えていくとコンパクトシティもすさんだものになってしまう（小林会長）</p> <p>3年間で札幌市としての「目標像」を掲げること、それを踏まえてどういうステップで実現していくのかというプログラム「行動計画」をつくる（林委員）</p>

「重点的な取組みなど」欄の記号については、資料「環境・都市機能分科会の議論のまとめ」との対応関係を示している
 当面の重点的な取組み、実践手法・仕組みの提案、これからのまちづくりの大切な視点、取組みの方向と課題

重点戦略課題	現状・課題	重点的な取組みなど	具体的な委員意見
その他 (居住)	<p>住み替えについて、今は民間に全て任せている。原理原則もなく、土地を買ったものだけが自由に使っていくとすると問題</p> <p>札幌市ではオフィス需要の変動で中規模のオフィスビルが余り始めている</p> <p>高齢化社会では、都心に戻ってくるという兆候がある。まちなかは、高齢者がゆっくり歩いて楽しめる構造であることが必要</p> <p>マンションだけではなく、地域が一体となって高齢者を受け入れられるような再生をしていくことが必要</p>	幅広い世代が地域で住み続けられるための居住環境づくり	<p>地域の気候・地形、歴史・文化、景観等の地域資源を読み取った地域にふさわしい居住環境を計画することが必要（中井副会長）</p> <p>バリアフリー化に係るリフォームなどマンションに付随させ、地域において高齢者だけでなくいろいろな人が住まいる住まいづくりをしていくことが必要。（中井副会長）</p>
		高齢者が安心・安全に暮らせて、歩いて活動できる、都心の居住環境づくりを進める	<p>不動産のバンキングとか、安心して誰かに貸して違うところに住み替えできるというような仕組みをつくる。長期的には住み替えを社会的なシステムに置き直す（小林会長）</p>
その他 (安全・安心)	<p>防犯も含めた安全・安心な住環境については、今後の大きな課題</p> <p>高齢者、障がい者、妊産婦、子どもの視点で考えることが重要</p> <p>郊外の観光施設への交通アクセシビリティが低い</p>	<p>誰もが活動できる、まちのユニバーサルデザインの推進</p> <p>【取組みの方向】</p>	<p>高齢者や外国から来た人が、交通アクセスなどの物理的な環境や、人間が手伝うことも含めて、今まで整備してきた施設の恩恵を享受しやすい環境をつくっていく（郊外の観光施設等（札幌芸術の森、モエレ沼公園等）への交通アクセスの改善（小林会長）</p> <p>冬、高齢、安心・安全というのは非常に大事。札幌全体の観点から、市民の気持ちや物理的な環境を含めた広い意味でのユニバーサルデザインというものを考えなくてはいけない（小林会長）</p> <p>安全・安心で自由な活動ができるバリアフリー化、誰もが認識できるまちのサイン・情報システムの整備が必要（中井副会長）</p>
その他 (コミュニティ)	<p>既存の公共的なスペースは、憩える感じではない。いつでも、誰でも自由に使えるような公共的な空間を増やすことが必要</p> <p>市民、企業が何をやる必要があるのか、自分たちでスタンダードを決めて構わないというようにすることが重要</p> <p>計画等を市民に浸透させるためには、個人としてできることがあるということを示してあげることが必要</p>	<p>地域の住民、NPOなどが集まり交流できるたまり場づくり</p> <p>連絡所や学校施設を住民のまちづくり拠点として活用</p> <p>NPOの自主管理による公共施設の柔軟な活用</p> <p>NPOが公共施設を管理運営するモデル事業の実施</p> <p>まちづくりセンターをNPOや住民主体で自主運営する仕組みづくり</p>	<p>【まちづくりセンター】</p> <p>まちづくりセンターを地域の交流拠点にする（市職員だけでなく、NPOや地域ボランティアが活用でき、市民が自由にたまる場にする。そのスペースをセンター内に確保する）（中島委員）</p> <p>市民が何か問題意識をもって行動したいと思ったときの手助けができるような拠点にする（情報の収集と発信のしやすいしくみづくり・職員のコーディネート機能の強化（市の事業部局との調整）など）（大坂委員）</p> <p>職員がいない時間でも使用できるようにする。管理は、NPOが直接運営に参加するという方向（大坂委員・中島委員）</p> <p>【その他の施設】</p> <p>区民センターの図書室をボランティアの活用により開館時間を延長する（大坂委員）</p> <p>公園の管理運営をもっと市民が関わられるようにする（大坂委員）</p> <p>学校等の教育施設を時間でシェアリングしながら使えるようにする（小林会長）</p>
		<p>市民が公共空間と積極的に関わり、まちづくり・まち育て活動を学び、実践する場づくり</p> <p>地域通貨を活用したコミュニティ活動の実験的な取組み</p>	<p>まちづくりをサポートする人材の育成とまちとの関わり方を示していくまちづくり手引き書（まちづくり読本）が必要（中井副会長）</p> <p>地域通貨を活用したコミュニティ活動の運営に関する実験的な取組み（中島委員）</p> <p>バス待合室でのコミュニティビジネス支援（大坂委員）</p> <p>民設のまちづくり拠点とまちづくりハウスの連携（大坂委員）</p>
その他 (広報戦略)	<p>計画等を市民に浸透させるためには、個人としてできることがあるということを示してあげることが必要</p> <p>多くの情報が発信されているが、市民に伝わっていないことが多い</p> <p>市民が自ら考えていくには刺激が必要</p>	<p>多様なメディアや民間の知恵を活用した広報活動</p> <p>市民参加を広げるためのイベントの活用</p>	<p>広報番組の再活用による情報発信（市の施設での貸出、市役所のロビーでの再放送、市が企画するイベントの開場から開会までの待ち時間などでの再放送）（大坂委員）</p> <p>コミュニティFMと公共施設の連携（exまちづくりに関するイベントを公共施設で開催する場合、会場申込みをするとコミュニティFMでイベントを紹介してもらえるような連携体制を設ける）（大坂委員）</p> <p>情報発信については、行政だけではなく民間の知恵や人材を活かし、多様な媒体を使いながら戦略的に行う（小林会長・中島委員）</p> <p>雪まつりやYOSAKOIソーラン祭りなど大きなイベント等を活用したごみ分別等の普及啓発の推進（大坂委員）</p>

「重点的な取組みなど」欄の記号については、資料「環境・都市機能分科会の議論のまとめ」との対応関係を示している
 当面の重点的な取組み、実践手法・仕組みの提案、これからのまちづくりの大切な視点、取組みの方向と課題